

【平成 29 年 3 月の経済報告】

平成 29 年 3 月 24 日

本稿は、マイクロマシン／MEMS 分野を取り巻く経済・政策動向のトピックをいろいろな観点からとらえて発信しています。初冬、平成 29 年 3 月の経済報告をお届けします。

1. 全般動向

1 月の C I（速報値・平成 22(2010)年=100）は、先行指数：105.5、一致指数：114.9、遅行指数：115.7 となった（注）。

先行指数は、前月と比較して 0.6 ポイント上昇し、4 か月連続の上昇となった。3 か月後方移動平均は 1.47 ポイント上昇し、3 か月連続の上昇となった。7 か月後方移動平均は 0.70 ポイント上昇し、6 か月連続の上昇となった。

一致指数は、前月と比較して 0.7 ポイント下降し、2 か月連続の下降となった。3 か月後方移動平均は 0.30 ポイント上昇し、6 か月連続の上昇となった。7 か月後方移動平均は 0.43 ポイント上昇し、5 か月連続の上昇となった。

遅行指数は、前月と比較して 0.6 ポイント上昇し、3 か月連続の上昇となった。3 か月後方移動平均は 0.63 ポイント上昇し、6 か月連続の上昇となった。7 か月後方移動平均は 0.22 ポイント上昇し、2 か月連続の上昇となった。

詳細は以下の HP をご参照下さい。

<http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/di/201701psummary.pdf>

2. 各経済指標

◎ 月例報告（内閣府）（平成 29 年 2 月 23 日公表）

日本経済の基調判断

（現状）

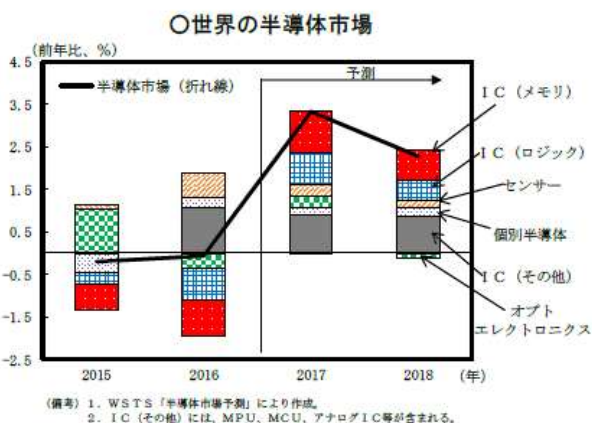
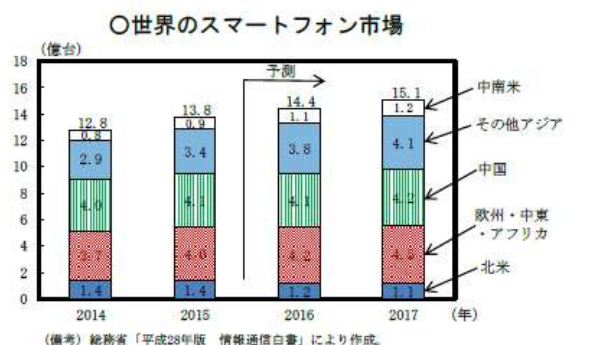
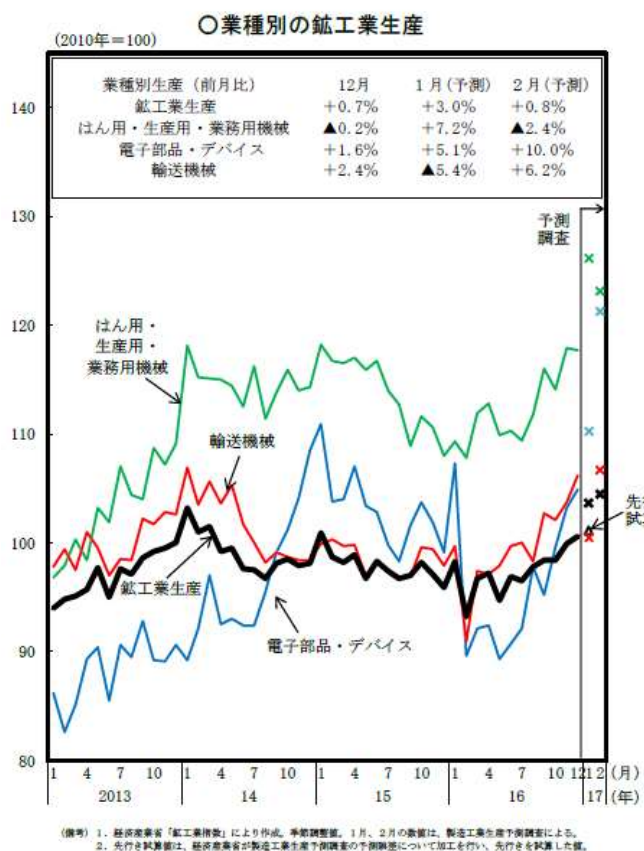
- ・景気は、一部に改善の遅れもみられるが、穏やかな回復基調が続いている

（先行き）

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、穏やかな回復に向かうことが期待される。ただし、海外経済の不確実性や金融資

本市場の変動の影響に留意する必要がある。

生産：持ち直している



詳細は以下のHPをご参照下さい。

<http://www5.cao.go.jp/keizai3/getsurei/2017/02kaigi.pdf>

◎ 設備投資

平成 29 年 1 月実績：機械受注統計調査報告

(平成 29 年 3 月 13 日内閣府経済社会総合研究所)

機械受注総額の動向をみると、2016(平成 28)年 12 月前月比 4.4%減の後、2017(平成 29)1 月は同 10.0%減の 2 兆 2,369 億円となった。

需要者別にみると、民需は前月比 23.2%減の 9,220 億円、官公需は同 20.4%増の 3,546 億円、外需は同 3.2%増の 8,806 億円、代理店は同 10.4%減の 1,080 億円となった。

民間設備投資の先行指標である「船舶・電力を除く民需」の動向をみると、2016(平成 28)年 12 月前月比 2.1%増の後、2017(平成 29)年 1 月は同 3.2%減の 8,379 億円となった。このうち、製造業は同 10.8%減の 3,309 億円、非製造業(除く船舶・電力)は同 0.7%増の 5,076 億円となった。

対前月(期)比

(単位:%)

需要者	2016年 (平成28年)				2017年 (平成29年)	2016年 (平成28年)				2017年 (平成29年)
	1-3月 (実績)	4-6月 (実績)	7-9月 (実績)	10-12月 (実績)	1-3月 (見通し)	10月 (実績)	11月 (実績)	12月 (実績)	1月 (実績)	
受注総額	-5.9	-5.3	-1.1	13.4	-6.8	2.8	19.8	-4.4	-10.0	
民需	6.2	-11.5	2.5	10.9	0.5	5.2	8.1	6.6	-23.2	
” (除船電)	4.2	-6.4	5.5	0.3	1.5	3.4	-2.8	2.1	-3.2	
製造業	7.7	-8.5	1.9	2.7	9.7	0.4	8.1	0.8	-10.8	
非製造業(除船電)	2.7	-3.5	6.2	-1.0	-3.3	2.7	-5.6	2.1	0.7	
官公需	29.6	-12.8	8.3	13.5	2.9	10.7	13.9	-2.9	20.4	
外需	-23.2	6.7	-8.6	15.5	-16.0	7.1	16.3	-12.1	3.2	
代理店	5.2	-6.8	7.5	-0.1	-2.0	-6.3	5.3	1.2	-10.4	

(備考) 1. 季節調整値による。季節調整系列は個別に季節調整を行っているため、需要者別内訳の合計は全体の季節調整値とは一致しない。

2. 2017年1月調査(同年3月13日公表)において、季節調整系列の遡及改訂を行ったため、それに伴い「2017年1~3月見通し」(同年2月9日公表)も改訂されている。

詳細は以下の HP をご参照下さい。

<http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/juchu/1701juchu.html>

◎鋳工業指数調査

【最新プレス情報 平成 29 年 1 分】 (平成 29 年 3 月 15 日発表)

鋳工業指数(生産・出荷・在庫、生産能力・稼働率、生産予測指数)
～製造業の動きから見る日本の景気～

<概況>

製造工業稼働率指数は、101.7 で前月比 0.1%の上昇であった。

製造工業生産能力指数は、94.4 で前月比-0.1%の低下であった。

製造工業生産能力・稼働率指数、平成22年（2010年）=100

	季節調整済指数		原指数		
	指数	前月比	指数	前月比	前年同月比
稼働率	101.7	0.1	96.1	-3.1	3.3
生産能力			94.4	-0.1	-0.4

鉱工業指数、平成22年（2010年）=100

	季節調整済指数		原指数	
	指数	前月比	指数	前年同月比
生産 (速報値)	100.2 (99.8)	-0.4 (-0.8)	93.1 (92.7)	3.7 (3.2)
出荷 (速報値)	99.2 (98.5)	0.3 (-0.4)	91.9 (91.2)	4.3 (3.5)
在庫 (速報値)	107.4 (107.5)	-0.1 (0.0)	111.1 (111.2)	-4.4 (-4.3)
在庫率 (速報値)	111.1 (111.4)	1.5 (1.7)	120.8 (121.2)	-4.4 (-4.1)

<電子部品・デバイス工業、電気機械工業>

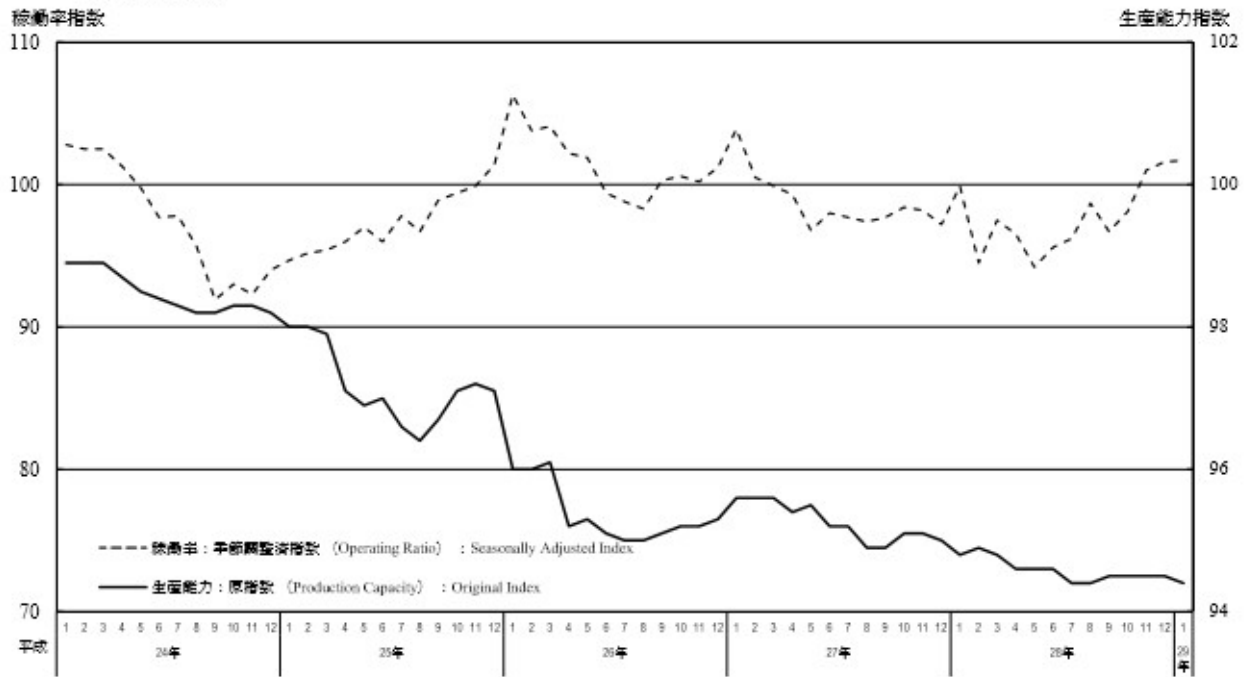
(1) 1月の製造工業稼働率指数は、101.7で前月比0.1%の上昇であった。業種別にみると、電子部品・デバイス工業同2.2%、窯業・土石製品工業同2.4%、その他工業同1.9%等が上昇し、輸送機械工業同▲3.6%、はん用・生産用・業務用機械工業同▲1.6%、非鉄金属工業同▲3.6%等が低下した。

(2) 1月の製造工業生産能力指数は、94.4で前月比▲0.1%の低下であった。業種別にみると、電気機械工業同▲1.0%、窯業・土石製品工業同▲1.3%、はん用・生産用・業務用機械工業同▲0.3%等が低下し、電子部品・デバイス工業同0.3%、鉄鋼業同0.4%、その他工業同0.6%等が上昇した。

製造工業生産能力指数・稼働率指数の推移(グラフ)

Historical Data (Graph) for Indices of Production Capacity and Operating Ratio

(平成22年基準)
(2010 average=100)



製造工業生産能力指数・稼働率指数の時系列表
Historical Data for Indices of Production Capacity and Operating Ratio

平成22年 = 100
index, 2010 = 100

年 月	稼働率 Operating Ratio				生産能力(末) Production Capacity				Year and Month
	季節調整済指数 Seasonally Adjusted Index		原指数 Original Index		原指数 Original Index		原指数 Original Index		
	前月(期)比 %Change From Previous Month(Quarter)		前年 (同月期)比 %Change From Previous Year		前月(期)比 %Change From Previous Month(Quarter)		前年 (同月期)比 %Change From Previous Year		
平成 26 年			101.3	4.1	95.3		▲ 1.9		C.Y. 2014
27			98.7	▲ 2.6	95.0		▲ 0.3		C.Y. 2015
28			97.6	▲ 1.1	94.5		▲ 0.5		C.Y. 2016
平成 25 年度			100.0	4.8	96.1		▲ 1.8		F.Y. 2013
26			100.6	0.6	95.6		▲ 0.5		F.Y. 2014
27			98.0	▲ 2.6	94.8		▲ 0.8		F.Y. 2015
平成27 年	IV期	97.9	0.3	97.8	▲ 2.2	95.0	0.1	▲ 0.3	Q4 2015
平成28 年	I 期	97.3	▲ 0.6	98.3	▲ 2.9	94.8	▲ 0.2	▲ 0.8	Q1 2016
	II 期	95.4	▲ 2.0	94.6	▲ 2.7	94.6	▲ 0.2	▲ 0.6	Q2
	III 期	97.2	1.9	98.1	▲ 0.6	94.5	▲ 0.1	▲ 0.4	Q3
	IV 期	100.2	3.1	99.5	1.7	94.5	0.0	▲ 0.5	Q4
平成27 年	11月	98.2	▲ 0.2	97.2	0.0	95.1	0.0	▲ 0.1	Nov. 2015
	12月	97.2	▲ 1.0	96.4	▲ 3.3	95.0	▲ 0.1	▲ 0.3	Dec.
平成28 年	1月	99.9	2.8	93.0	▲ 5.3	94.8	▲ 0.2	▲ 0.8	Jan. 2016
	2月	94.5	▲ 5.4	95.9	▲ 2.3	94.9	0.1	▲ 0.7	Feb.
	3月	97.5	3.2	106.1	▲ 0.9	94.8	▲ 0.1	▲ 0.8	Mar.
	4月	96.5	▲ 1.0	92.8	▲ 4.3	94.6	▲ 0.2	▲ 0.8	Apr.
	5月	94.2	▲ 2.4	91.0	▲ 1.2	94.6	0.0	▲ 0.9	May
	6月	95.6	1.5	100.0	▲ 2.4	94.6	0.0	▲ 0.6	Jun.
	7月	96.2	0.6	100.4	▲ 4.6	94.4	▲ 0.2	▲ 0.8	Jul.
	8月	98.7	2.6	93.2	4.5	94.4	0.0	▲ 0.5	Aug.
	9月	96.7	▲ 2.0	100.8	▲ 1.0	94.5	0.1	▲ 0.4	Sep.
	10月	98.1	1.4	97.8	▲ 1.9	94.5	0.0	▲ 0.6	Oct.
	11月	101.0	3.0	101.5	4.4	94.5	0.0	▲ 0.6	Nov.
	12月	101.6	0.6	99.2	2.9	94.5	0.0	▲ 0.5	Dec.
平成29 年	1月	101.7	0.1	96.1	3.3	94.4	▲ 0.1	▲ 0.4	Jan. 2017

※ なお、詳細は以下の HP をご参照下さい。

http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result/pdf/press/b2010_201701nj.pdf

2. その他の動向

1) 電子部品グローバル出荷統計

一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) は、電子部品グローバル出荷統計の最新版月別出荷金額 (2017.02.28 発表) を公表しました。

- ・ 2016 年 12 月グローバル出荷額は 3,352 億円、前年比 104.7% となり、前年比プラスとなった。
- ・ 品目別出荷は受動部品 (前年比 107.1% 1,127 億円)、接続部品 (同 112.8% 932 億

円)、変換部品(同 105.1% 754 億円)、その他の電子部品(同 89.1% 538 億円)となった。

・地域別出荷は、日本(前年比 103.5% 810 億円)、米州(同 95.2% 279 億円)、欧州(同 100.7% 256 億円)、中国(同 103.5% 1279 億円)、アジア・その他(同 114.6% 729 億円)となった。

【月別出荷金額】

電子部品出荷額(億円)	2016年度						2016年度累計		
	10月		11月		12月		4月-12月		
	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	
世界計	3,246	86	3,417	96	3,352	104	28,790	92	
(日本)	817	101	827	104	810	103	6,849	96	
品目別	受動部品	1,085	88	1,141	98	1,127	107	9,872	95
	コンデンサ	736	89	774	98	758	106	6,661	95
	抵抗器	111	91	116	100	118	104	1,042	96
	トランス	34	95	36	97	35	98	337	102
	インダクタ	199	82	211	96	210	114	1,798	93
	その他	3	111	3	103	3	99	32	94
	接続部品	869	96	946	107	932	112	7,721	95
	スイッチ	375	89	413	101	388	104	3,400	92
	コネクタ	489	103	528	111	538	120	4,278	98
	その他	5	110	4	108	5	126	43	102
	変換部品	754	95	765	99	754	105	6,241	92
	音響部品	193	94	172	86	184	94	1,404	82
	センサ	332	91	356	100	342	104	2,988	96
	アクチュエータ	228	102	236	110	226	117	1,849	94
	その他の電子部品	536	65	563	77	538	89	4,955	83
	電源部品	197	84	213	90	218	95	1,832	86
高周波部品	338	58	350	70	320	85	3,122	82	

【地域別出荷金額】

«2016年度»

地域別出荷金額(億円)	2016年度						2016年度累計	
	10月		11月		12月		4月-12月	
	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)	金額(億円)	前年比(%)
グローバル	3,246	86	3,417	96	3,352	104	28,790	92
日本	817	101	827	104	810	103	6,849	96
米州	300	78	296	95	279	95	2,692	92
欧州	294	86	299	96	256	100	2,630	97
中国	1,142	77	1,270	89	1,279	103	10,506	87
アジア他	696	93	728	102	729	114	6,141	96

※電子部品グローバル出荷統計について

- ・本統計は、電子部品部会で実施している「電子部品企業のグローバル動向調査」を基に作成しております。
- ・本調査は、参加70数社から提出された、連結ベース(グループ間取引調整後)の出荷額データを取りまとめており、地域に関するデータは、原則として該当部品が消費される地域への出荷になります。
なお、合計値につきましては、単位未満切り捨てのため、一致しない場合がありますので、ご了承ください。

※ なお、詳細は以下の HP をご参照下さい。

http://home.jeita.or.jp/ecb/information/info_stati.html

2) MEMS 関連最新調査

米国調査会社マインドコマース(Mind Commerce)の調査レポート「MEMS(微小電気機械システム) 2016 - 2021年：コンポーネント、製品、用途、垂直市場」は、MEMSのエコシステム、企業、製品、サービスなどの市場を査定している。2016-2021年のMEMS市場の機能、機器、用途、垂直市場を予測し、世界市場と地域毎に提供している。

内容は、

- * 内蔵システムと MEMS
- * MEMS 市場促進要因
- * 企業分析
- * MEMS 市場予測

となっております。

サマリーは以下の HP をご参照下さい。

<http://www.dri.co.jp/auto/report/mindc/mcmems.html>

以上